

Ⅲ 耕地の利用状況

1 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（令和4年）

(1) 田畑計の作付（栽培）延べ面積は394万7,000ha（前年に比べ3万ha（1%）減少）となった。

田畑計の耕地利用率は91.3%（前年に比べ0.1ポイント低下）となった（表14）。

(2) 田の作付（栽培）延べ面積は218万7,000ha（前年に比べ1万3,000ha（1%）減少）となった。

田の耕地利用率は93.0%（前年並み）となった（表14）。

(3) 畑の作付（栽培）延べ面積は176万ha（前年に比べ1万7,000ha（1%）減少）となった。

畑の耕地利用率は89.2%（前年に比べ0.4ポイント低下）となった（表14）。

表14 令和4年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計			田			畑		
	作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		作付（栽培） 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付（栽培）延べ面積	3,947,000	△ 30,000	99	2,187,000	△ 13,000	99	1,760,000	△ 17,000	99
水 稻（子実用）	1,355,000	△ 48,000	97	…	nc	nc	…	nc	nc
麦 類（子実用）	290,600	7,600	103	185,800	5,400	103	104,800	2,200	102
大 豆（乾燥子実）	151,600	5,400	104	120,700	5,100	104	30,900	400	101
そば（乾燥子実）	65,600	100	100	38,300	△ 200	99	27,300	300	101
なたね（子実用）	1,740	100	106	…	nc	nc	…	nc	nc
そ の 他 作 物	2,083,000	6,000	100	486,600	25,800	106	1,596,000	△ 20,000	99
耕 地 面 積	4,325,000	△ 24,000	99	2,352,000	△ 14,000	99	1,973,000	△ 10,000	99
耕 地 利 用 率	91.3	△0.1ポイント	-	93.0	0.0ポイント	-	89.2	△0.4ポイント	-

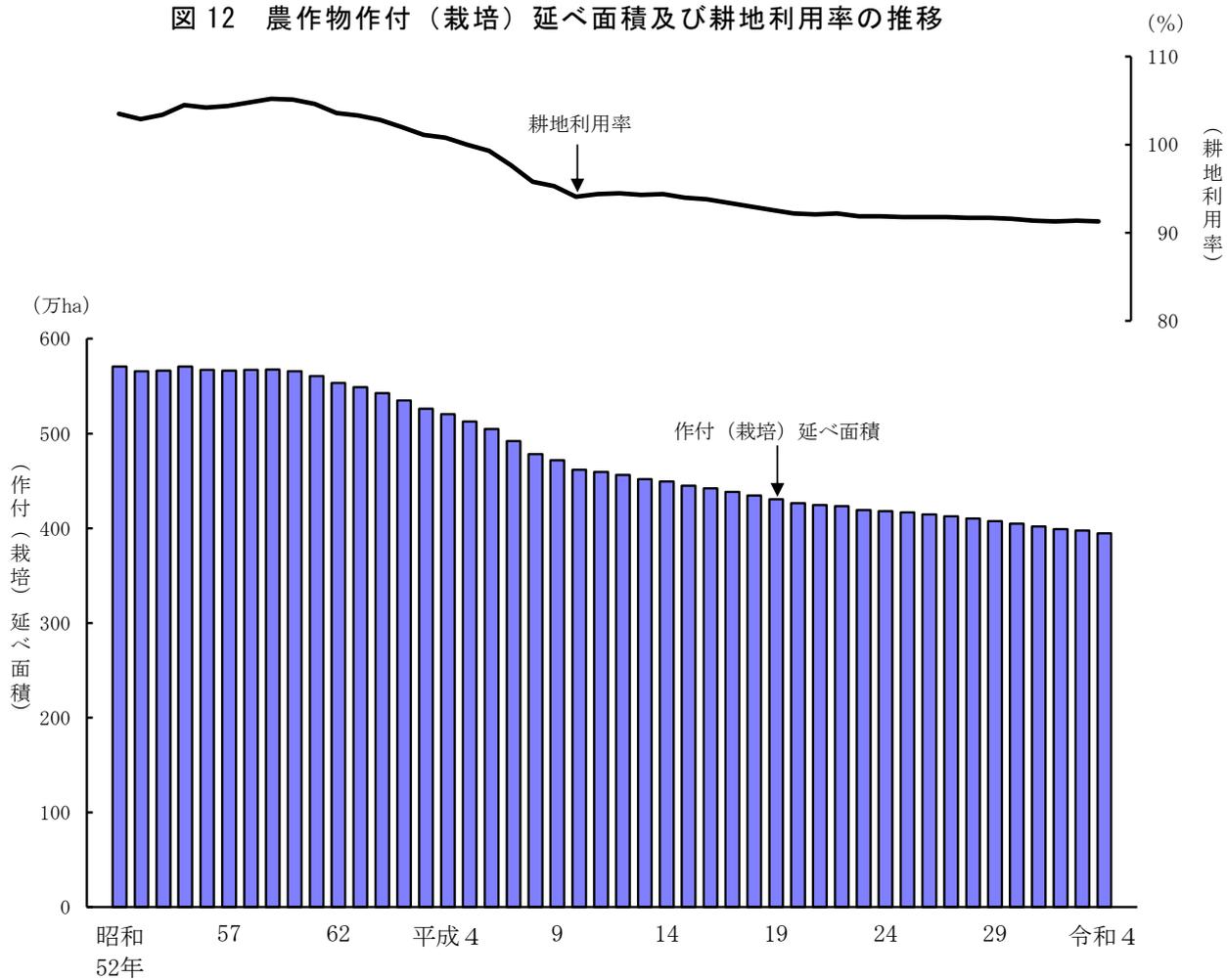
注：耕地利用率とは、耕地面積を「100」とした場合の作付（栽培）延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率（\%）} = \frac{\text{作付（栽培）延べ面積}}{\text{耕地面積}} \times 100$$

(4) 作付（栽培）延べ面積の動向をみると、昭和49年から昭和60年は麦類の生産振興による作付面積の増加等からほぼ横ばいで推移した。昭和61年以降は作物ごとに増減はあるものの、総体的には減少傾向で推移している（図12）。

(5) 耕地利用率の動向をみると、昭和48年から平成4年までは100%を越えていたが、平成5年に100%となり、平成6年には99.3%と100%を下回った。平成7年以降はほぼ低下傾向で推移し、平成23年以降はほぼ横ばいで推移している（図12）。

図 12 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移



2 夏期における田本地の利用状況

(1) 令和4年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は154万5,000ha（青刈り面積を含む。）（前年に比べ1万9,000ha（1%）減少）となった。

水稲以外の作物のみの作付田は40万4,400ha（前年に比べ3,400ha（1%）増加）となった。

また、夏期全期不作付地は27万3,100ha（前年に比べ1,800ha（1%）増加）となった。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は69.5%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は18.2%、夏期全期不作付地の割合は12.3%となった（表15）。

表 15 令和4年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,223,000	△ 13,000	99	100.0
水 稲 作 付 田	1,545,000	△ 19,000	99	69.5
水稲以外の作物のみの作付田	404,400	3,400	101	18.2
夏期全期不作付地	273,100	1,800	101	12.3

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあったものの、水稲作付田は減少傾向で推移している（図13）。

